

演習追加問題(古代オリエント)

【1】 関西学院大学 文学部

次の①～⑩の文中の下線部が誤っているものにはその記号に、すべての下線部に誤りがない場合はeにマークしなさい。

- ① メソポタミア文明においては、a ジググラトと呼ばれる聖塔が建てられ、天文学・数学・暦法などの学問が盛んで、b 楔形文字、c 太陽暦、d 六十進法が使われた。
- ② 紀元前 1900 年頃、セム系のa アムル人がバビロンを首都とするb 新バビロニア王国を形成し、c ハンムラビ王の時に全メソポタミアを統一した。彼が定めた法典は「目には目を、歯には歯を」というd 復讐法の原則に立つものであった。
- ③ エジプト古王国は下エジプトのa テーベを都とし、b クフ王などのファラオたちはc ギザなどに巨大なピラミッドを建設した。紀元前 21 世紀からは中王国が栄えたが、その末期にはシリア方面から遊牧民d ヒクソスの侵入を受けた。
- ④ エジプト新王国のa アメンホテプ 4 世はb アモンを唯一神とし、都をc テル＝エル＝アマルナに移した。この時代には、独特のd 写実的な美術が栄えることになった。
- ⑤ 紀元前 1200 年頃に「海の民」の侵攻によりa ヒッタイト王国が滅亡すると、シリアではb アラム人がc ダマスカスを中心に内陸での中継貿易で活躍する一方、d フェニキア人はシドンなどを拠点に海上貿易で栄えた。e
- ⑥ 紀元前 10 世紀後半、a ソロモン王の死後にヘブライ人の王国は南北に分裂した。その後、南のb ユダ王国はc アッシリアに征服され、その住民の多くがバビロンへ連行された。長い苦難を経験した人々はd アケメネス朝により解放された。
- ⑦ 紀元前 7 世紀に全オリエントを統一したアッシリアは、その過酷な支配のために長続きせず滅び、a エジプト、b リディア、c ミタンニ、d メディアの 4 王国が分立した。
- ⑧ 紀元前 6 世紀中頃、ペルシア人のa キュロス 2 世がアケメネス朝を建国し、その子b カンビュセス 2 世のもとで全オリエントの再統一が成し遂げられた。また、この国ではc 最後の審判をとなえるd ゴロアスター教が信仰された。e
- ⑨ アケメネス朝のダレイオス 1 世は、都a スサの造営に着手する一方、小アジアのb サルデスへと通じる「王の道」を建設した。また、各州をc サトラップたちに統治させるとともに、王直属の監察官を巡回させて彼らを監視した。「王の道」に面したベヒストゥーン碑文には、ダレイオス 1 世の事績が刻まれているが、これはイギリス人d ローリンソンによって解読された。
- スサはアッカド時代にはエラム民族の国家が生れ、その首都となったが、前 640 年頃アッシリア王アッシュールバニパルによって破壊された。しかし前 522 年からアケメネス朝ペルシアのダレイオス 1 世とその後継王たちがここを首都と定め、宮殿をはじめ都市が建設されて大いに栄えた。首都がペルセポリスに移ったあとも、冬宮、交易中心地として重んじられた。「スサの造営」という表現で誤りとしたが、微妙な問題だと思う。ダレイオス 1 世が王都ペルセポリスを造営したことを念頭に置いて問題が作成されていることは明白であるが、，，，。
- ⑩ 紀元前 30 世紀～紀元前 12 世紀に栄えたエーゲ文明の存在は、a シュリーマンがミケーネなどを、b エヴェンズがクレタ島のクノッスを発掘した結果として判明した。また、線文字のうちc クレタ文明のものである線文字 B をd ヴェントリスが解読した。

【2】 関西学院大学 総合政策学部

次の A～E の文中の下線部に関する問いに答え、記号にマークしなさい。

- A メソポタミアで最初の高い文化を形成した⁽¹⁾シュメール諸都市は、アッカド人により次々に征服された。そして前 24 世紀頃⁽²⁾この国王のもとで、メソポタミアにはじめての統一国家が実現された。この地の交易圏・文化圏が拡大したことも事実だが、この国王は機動力をもってする戦争でたちまちメソポタミアを席卷した。当時の碑文はいう。「この国王は 34 回の出征に勝利をおさめ、海の岸に至るまでのあらゆる城砦を砕いた。……エンリル(神々の長)の手は、この国王に敵対する者を許さなかった。毎日この国王の御前で 5 万 4 千の兵が食事をとった」と。しかしこの膨大な数の兵士を維持するための略奪的支配を 2 世紀以上続けることは不可能だった。
- B ヒクソスを追い出して成立したエジプト新王国は、馬と戦車の軍隊でシリアにまで進出し、ミタンニやヒッタイトと衝突することになる。前 13 世紀初頭ダマスカスの北方 80 キロメートルの⁽³⁾この地で、ついに⁽⁴⁾エジプトとムワタリ王率いるヒッタイト軍が戦端を開いた。この戦いは古代最大の戦いのひとつで、その戦術と戦闘隊形が判っている最古のものであるが、興味深いことに両軍とも

自軍の健闘をたたえ、それぞれに勝利を宣言・休戦したうえで講和を結んだ。これが現在確認できる最古の国際条約である。この後両者は姻戚関係を結び、エジプト側の司令官であった国王の長い治世の間には平和が続いた。

- C 前 10 世紀も中頃になるとヘブライ王国は⁽⁶⁾この国王のもとで隆盛をきわめることになった。そうした繁栄を伝える逸話が『旧約聖書』の「列王紀」である。この国王は「戦車用の馬の厩舎 4 万と騎兵 1 万 2 千を持っていた」という。彼こそ、古代世界きっての大馬主だったのではないか。しかしこの国王没後、ヘブライ王国はイスラエル王国とユダ王国に分裂し、後者は新バビロニアに滅ばされ、⁽⁶⁾バビロン捕囚の悲運をなめた。
- D 前 2 千年紀初め以来、北メソポタミアで勢力を強めてきたアッシリアは前 7 世紀にはエジプトをも併合して、史上はじめて全オリエントを支配する帝国を樹立した。アッシリアは騎馬を軍勢力として効率的に組織することができた。そのために、この帝国には馬に関する石のレリーフが多くみられる。この場合、馬は勝利と支配の象徴だった。⁽⁷⁾アッシュール＝バニパルの宮殿から出土したレリーフについて、ある解説は「シャマッシュ＝シュム＝ウキンに勝って意気揚々としたアッシュール＝バニパル王は戦車の上に立ち、彼の馬はきらびやかな装飾品で飾り立てられ、背後には妻が従い、そして陽光から守るために王にさしかけられた傘。こうした壮麗さ以上のものを、果たして描き得るであろうか」といっている。しかしこの王の死後、アッシリア帝国はその過酷な支配で反感を買ひ、そのために、⁽⁸⁾4 王国に分裂してしまう。
- E アッシリアの後を受けてオリエントの統一を確立したのが、ペルシア人である。彼らはアケメネス朝のもとで、前 6 世紀、しだいに勢力を広げ、エジプトからインダス川流域におよぶ大帝国を建設した。なかでもダレイオス 1 世の時、この帝国は行政・財政制度と⁽⁹⁾交通網を整備し、服属する民族の慣習も尊重して古代オリエントの専制支配を完成させた。一方、帝国形成とその維持に大きく貢献したのは、ペルシアのすぐれた馬事文化の伝統であった。すなわち征服戦争では騎馬の機動戦術によって、帝国維持の面では駅伝馬のネットワークによってである。カンビュセス 2 世死後の混乱のなかから⁽¹⁰⁾ダレイオス 1 世が誕生した経緯について、以下のような逸話が残されている。王位継承者 7 人を明け方に騎乗させ、最初にその騎乗馬がいなかった者に王位継承の資格が与えられることになっていた。未来の新王の馬がいなかった。これは馬丁の策のおかげであった。石の浮彫像を作らせることが新王の最初の命令となった。その碑銘には、「ヒュスタスパスが^{いっし}一子、馬と馬丁の功績によってペルシアの王位を得たり」と刻まれている。

[問 い]

- (1) シュメール諸都市の文化に直接関係のない事項はどれか。
- | | | |
|----------|-------------|--------|
| a. ジググラト | b. 楔形文字 | c. 太陽暦 |
| d. 六十進法 | e. 1 週 7 日制 | |
- (2) この国王はどれか。
- | | | |
|------------------|-----------|---------|
| a. サルゴン 1 世 | b. ギルガメシュ | c. オシリス |
| d. ティグラトピレセル 3 世 | e. ハンムラビ | |
- (3) この地はどれか。
- | | | |
|---------|---------|---------|
| a. スミルナ | b. イェリコ | c. ロゼッタ |
| d. ティルス | e. カデシュ | |
- (4) この時のエジプト国王はどれか。
- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| a. トトメス 3 世 | b. アメンホテプ 4 世 | c. ツタンカーメン |
| d. ラメス 2 世 | e. クフ | |
- (5) この国王に関する記述で誤りを含むものはどれか。
- | | |
|------------------|------------------|
| a. 先王はダヴィデである。 | b. 王国第 3 代の王である。 |
| c. リディア遠征を行った。 | d. 首都はイェルサレムだった。 |
| e. ヤハウエの神殿を建築した。 | |
- (6) バビロン捕囚を解いた勢力はどれか。
- | | | |
|------------|-----------|---------|
| a. アケメネス朝 | b. アッシリア | c. メディア |
| d. エジプト新王国 | e. セレウコス朝 | |

- (7) アッシュール＝バニパルが大図書館を建設したティグリス川中流の場所はどこか。
- a. エクバタナ b. バビロン c. ニネヴェ
- d. ベヒストゥーン e. アッシュール
- (8) この4王国のなかで、前7世紀にはじめて貨幣の鋳造が行われたのはどれか。
- a. リディア b. メディア c. カルデア
- d. ペルガモン e. エジプト
- (9) ヘロドトスが「王の道」と呼んだ国道を早馬で駆け抜ければ、首都のひとつスサからイオニアの州都まで1週間程で到達できたという。イオニアの州都はどこか。
- a. ビザンティオン b. アンティオキア c. サルデス
- d. アルベラ e. シラクサ
- (10) ダレイオス1世と直接関係のない事項はどこか。
- a. ペルセポリス造営 b. サトラップ任命 c. ペルシア戦争開始
- d. 金・銀貨鋳造 e. ゾロアスター教弾圧

【3】 成蹊大学 文学部

次の文章を読み、設問(1)～(10)に対する答えを a ～ e から 1 つ選んで、その記号を所定欄にマークしなさい。

アーリヤ人がイラン高原をこえてインドへ侵入してきたとき、もっとも主要な敵対者となった原住民は 1 であった。1 は、その言語とインダス文字との関連の深さから、インダス文明を担った民族である可能性が指摘されている。彼らは、アーリヤ人侵入の際には全インドに広がって定住しており、森林を開拓して耕地や牧場をもち、部落の周囲に城砦を築き、青銅製の道具を用い、黄金の装飾をも衣服につける階層をもつ民族であったと考えられている。そのような文化を持つ民族でありながら、アーリヤ人に侵入され征服されてしまったのは、アーリヤ人が彼らの持っていない 2 を持っていたからであった。

3 アーリヤ人は征服者とはいえ、文化を持つ原住民に対する警戒感は強く、それは差別意識と結びついた。聖典『リグ・ヴェーダ』には、アーリヤ人が神々の力を借りて退治する悪魔の姿が描かれているが、その悪魔は、皮膚の色が黒く喋り方も異様であると表現されて恐れられており、これは原住民への言及と考えられている。階層身分のことを指す 4 という言葉は、もともとは色を意味し、皮膚の色の白かったアーリヤ民族が皮膚の色の異なる異民族のことをさす言葉だったが、アーリヤ人がガンジス河を取り囲む大地に 5 を確立していくにつれて、皮膚の色とは無関係に、厳しく分断された4つの階層身分を意味するようになった。これがのちのカースト制度の基礎である。広大なインドを征服したアーリヤ人であるが、アーリヤ民族全体の統率者も、民族全体にわたる政治的統一も存在しなかった。しかしさまざまな危機や異民族への攻撃という場合には、それぞれの部族が同盟関係を結び、目的を達していた。それを可能にしたものは、政治統合ではなく、むしろ宗教に対する共同の強い自覚であった。だからこそバラモンは、たんに宗教的権威であるだけでなく政治権力と不可分の存在であり、したがってこの社会の最上位に君臨する階層となったのである。しかし、紀元前500年前後になると、バラモン教への批判がひろがり、時代に呼応する新しい宗教がつぎつぎに生まれた。たとえばヴァルダマナーがひらいたジャイナ教、ガウダマ＝シッダールタがひらいた7仏教などである。さらに、この頃には二大叙事詩『マハーバーラタ』と『ラーマヤナ』の原形がつくられた。

インド初の統一国家となるのは、強大な軍隊と官僚組織を持つにいたったマウリヤ朝であった。第3代のアショーカ王の時代にマウリヤ朝は最盛期に達し、その領土は南端を除く大部分のインド亜大陸におよんだ。しかしアショーカ王は、9紀元前3世紀前半に激戦のうえ征服に成功した国を訪れた際、その戦禍に衝撃をうけ、それを機に武力による統一政策を転換してしまう。以後、10王は仏教に深く帰依し、仏教精神にもとづく統治をめざし、社会事業を進め、さらに仏教の保護と国外への布教にもつとめた。王は仏教信仰にもとづく政治理想の実現のために、周辺諸国の王のもとへ使節を派遣した。使節の赴いた諸国では病院や菓草園などがつくられ、それを聞いたアショーカ王は大変喜んだという。

〈設問〉

- [illegible]

(2) 2にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. 馬と戦車
- b. 戦車と火薬
- c. 火薬と馬
- d. 火薬と組織された重装歩兵
- e. 戦車と組織された重装歩兵

(3) 下線部3に関連した事柄の説明として、適切でないものは次のうちどれか。

- a. インド＝アーリヤ系諸民族とヨーロッパ系諸民族との、深い民族的・文化的関係が立証されたのは、グリム兄弟がおこなった言語研究がきっかけであった。
- b. イラン高原からインド北西部に移住するとき、アーリヤ人はカイバル峠を越えた。ここは古くから交通の要衝であり、大乘仏教が北方へ伝えられるときにもこのルートを通った。
- c. 「アーリヤ」とは「気高い、高貴な」という意味であり、彼らが自らを称して使っていた。
- d. インドを中心にみられる牛を神聖視する風習は、アーリヤ人の風習が現在に受け継がれたものである。
- e. 『リグ・ヴェーダ』は、アーリヤ人の自然崇拜が賛歌や儀礼集というかたちでまとめられたものであり、数種類ある『ヴェーダ』のなかで最後に集大成されたものである。

(4) 4にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. ヴァルナ
- b. カスタ
- c. カルマ
- d. ジャイナ
- e. ジャーティ

(5) 5にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. 漁労社会
- b. 巡礼都市
- c. 商業都市
- d. 農耕社会
- e. 遊牧社会

(6) 下線部6に関する説明として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. バラモンは他の階層に重税を課したため、不安や反発がいつきに高まったが、新しい宗教はこの苦難に耐える価値を説いたので社会的騒乱は抑止された。
- b. 新しい宗教は、バラモンの祭式が形式主義に陥って形骸化したことを批判し、勢力を拡大しつつあった商人や職人たちに歓迎された。
- c. バラモン教は厳しい身分的宗教戒律を定めていたため、新しい宗教が登場するとバラモン内部からもその支持者が多く出た。
- d. 新しい宗教は、民衆から離れていたバラモン教の精神を生活実践のなかにとりいれる試みを含んでいた。
- e. バラモン教は異民族が次第に増える社会に対応する術を失っていたが、新しい宗教は民族を問わないため、アーリヤ人以外の流入民族がその主な担い手となった。

(7) 下線部7に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. 個人的な解脱という目的から万民の救済を目的とする仏教へと変化して成立したのが、小乗仏教である。ナーガールジュナは小乗仏教の理論書『中論』を著した。
- b. 仏陀とは悟りを開いた者のことを意味し、菩薩とは、厳しい修行中の者を見守る仏の慈悲の心を意味している。菩薩は民間への布教に大きな役割を果たした。
- c. 義浄は、グプタ朝が建立したナーランダー寺院で学び、インド、南海を経て帰国したが、この途中、スマトラ島で当時まだ造営中のボロブドゥールに立ち寄った。
- d. 上座部仏教は、形式化しがちな戒律に厳しく縛られることなく、長老たちの知恵を伝承することによって救済の道を模索した仏教分派である。スリランカで発展した。
- e. ラマ教とは、伝播した大乘仏教とチベット固有の土着宗教とが融合したものである。吐蕃の国教となるがその末期には衰退し、再び元朝時代に国家の保護をうけ栄えた。

(8) 下線部8に関する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. マガダ国の王(→王子)ラーマが、奪われた愛妻の救出をする英雄叙事詩である。
- b. 商業が発展した時代状況を反映して、登場人物はすべてヴァイシャ(→クシャトリヤ)である。

c. 戦禍の悲しみをテーマにした四行詩集であり、現世の無常を説いたものである。

d. 仙人の娘と若き王が恋を成就させるまでの冒険物語である。

e. サンスクリット語で書かれ、4世紀ころに現在の形式がととのった。

(9) 下線部9の国は、次のうちどれか。

a. アンガ国

b. カピラ国

c. カリंगा国

d. クル国

e. コーサラ国

(10) 下線部10に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

a. アショーカ王は、釈迦の没後はじめて、釈迦の教説を集め編集する「仏典結集」をおこなった。

b. アショーカ王は、ストゥーパとよばれる石柱に、ダルマの理想政治にもとづく自らの勅令を刻ませた。

c. アショーカ王は、仏教の理想を伝える使節を漢の武帝のもとに送った。

d. アショーカ王は、自らの王子を布教のためにスリランカに派遣し、その地の仏教化に成功した。

e. アショーカ王の死後も、マウリヤ朝は約2世紀のあいだ存続した。

【4】 成城大学 経済学部

つぎの文章を読んで、後の設問に答えよ。

古代インドにおいて成立した仏教とヒンドゥー教はともに、インド北部においてはるかに以前から有力な宗教であったa バラモン教の影響のもとに形成された。(A) a 教の成立にかかわる文化的伝統は、インド＝ヨーロッパ系の b アーリヤ 人が、前 1500 年頃、中央アジアからパンジャブ地方に侵入して住みつき、さらに前 1000 年頃以降、東のガンジス川流域へと進出する歴史の長い時間のなかではぐくまれてきた。その長期にわたる民族移動の過程で定住も進み、農業生産が向上して余剰が増大し各地に都市国家が形成される。それにともない、

b 人支配層が先住民などを階級的に支配する社会構造も確立されて、今日にいたるまでの(B) インド社会に特有の複雑で固定的な身分秩序の基礎がかたちづくられることになる。

前 500 年頃の c ガウタマ=シッダータ を開祖とする仏教の発祥には、(C) そうした階級・階層社会にたいする批判の一面もみられる。それにたいして、その後に隆盛するヒンドゥー教は a 教 を直接の母体としその伝統を継承しつつ、さらにインドの (D) 民間信仰 や仏教の要素をとりいれながら発展し、インド的な身分秩序の維持に即応する側面が濃厚である。ヒンドゥー教は、とりわけ 4 世紀に成立した d グプタ 朝の時代から盛んになる。ところが仏教は、その頃からヒンドゥー教に吸収されるようなかたちで、(E) インドにおいてはしだいに衰退し、後のインドのイスラム化の過程で決定的な打撃を被ることになる。

問1 文中の空欄 a～d を埋めるのに最も適切な語句を記せ(同一記号は同一語句)。

問2 下線部(A)について、

(1) この宗教の神々への讃歌を記した文献から当時の文化をうかがい知ることができる。その神々への讃歌の文献を総称して何と呼ぶか。 ヴェーダ

(2) 上記(1)に関連して、この宗教に独自の哲学的思索について記した「奥義書」とも訳される聖典は何か。

ウパニシャッド

(3) 上記(1)の文献の記述に使用された言語から発達して洗練され、インドの古典の表記に古代から用いられてきた、梵語ともいわれるインド＝ヨーロッパ語系の言語は何か。 サンスクリット語

問3 下線部(B)について、

(1) この身分秩序の基軸として、四つの「種姓」と訳される階級構造がある。種姓にあたるインドの言葉をカタカナで記せ。

ヴァルナ

(2) 上記(1)に関して、四つの種姓のうち、下層の被征服民の種姓を何と呼ぶか。 シュードラ

(3) 上記(1)の種姓に、さらにジャーティといわれる多様な出身集団が組み合わさり構成されたインド固有の身分秩序をポルトガル語起源の言葉で一般に何と呼ぶか。 カースト

問4 下線部(C)について,

仏教の発祥と同じ頃に、これと同様の批判的な観点をもって登場し、しかも、今日のインドにも約 400 万人の信者がいる、不殺生・菜食主義の宗教は何か。 ジャイナ教

問5 下線部(D)について,

民間信仰をとり入れることにより、さまざまな神々が生み出され民衆に信仰されることになったが、なかでもヒンドゥー教の最高神とされる二つの神々の名前を記せ。 シヴァ神・ヴィシュヌ神

問6 下線部(E)について,

(1) 仏教は、インドにおいては衰退していったが、その後も、一方では中国やチベットや日本で、他方では東南アジアなどで盛んに信仰されるようになる。そのうち前者にあたる、おもにインド以北の地域で信仰されるようになった仏教を総称して何と呼ぶか。 大乘仏教

(2) 上記(1)の、北方に伝わった仏教の教義について思索してまとめ、中国や日本の思想にも影響をもたらし、日本の仏教界でも南都六宗・天台宗・真言宗の「八宗の祖師」と仰がれた、2～3世紀の南インド出身の仏教理論家は誰か。 ナーガールジュナ

演習追加問題(古代インド)

【1】 成蹊大学 文学部

次の文章を読み、設問(1)～(10)に対する答えをa～eから1つ選んで、その記号を所定欄にマークしなさい。

アーリヤ人がイラン高原をこえてインドへ侵入してきたとき、もっとも主要な敵対者となった原住民は **1 ドラヴィダ人** であった。

1 は、その言語とインダス文字との関連の深さから、インダス文明を担った民族である可能性が指摘されている。彼らは、アーリヤ人侵入の際には全インドに広がって定住しており、森林を開拓して耕地や牧場をもち、部落の周囲に城砦を築き、青銅製の道具を用い、黄金の装飾をも衣服につける階層をもつ民族であったと考えられている。そのような文化を持つ民族でありながら、アーリヤ人に侵入され征服されてしまったのは、アーリヤ人が彼らの持っていない **2 馬と戦車** を持っていたからであった。

³アーリヤ人は征服者とはいえ、文化を持つ原住民に対する警戒感は強く、それは差別意識と結びついた。聖典『リグ・ヴェーダ』には、アーリヤ人が神々の力を借りて退治する悪魔の姿が描かれているが、その悪魔は、皮膚の色が黒く喋り方も異様であると表現されて恐れられており、これは原住民への言及と考えられている。階層身分のことを指す **4 ヴァルナ** という言葉は、もともとは色を意味し、皮膚の色の白かったアーリヤ民族が皮膚の色の異なる異民族のことをさす言葉だったが、アーリヤ人がガンジス河を取り囲む大地に **5 農耕社会** を確立していくにつれて、皮膚の色とは無関係に、厳しく分断された4つの階層身分を意味するようになった。これがのちのカースト制度の基礎である。広大なインドを征服したアーリヤ人であるが、アーリヤ民族全体の統率者も、民族全体にわたる政治的統一も存在しなかった。しかしさまざまな危機や異民族への攻撃という場合には、それぞれの部族が同盟関係を結び、目的を達していた。それを可能にしたものは、政治統合ではなく、むしろ宗教に対する共同の強い自覚であった。だからこそバラモンは、たんに宗教的権威であるだけではなく政治権力と不可分の存在であり、したがってこの社会の最上位に君臨する階層となったのである。しかし⁶紀元前500年前後になると、バラモン教への批判がひろがり、時代に呼応する新しい宗教がつぎつぎに生まれた。たとえばヴァルダマーナがひらいたジャイナ教、ガウダマ＝シッダールタがひらいた⁷仏教などである。さらに、この頃には二大叙事詩『マハーバーラタ』と⁸『ラーマヤナ』の原形がつくられた。

インド初の統一国家となるのは、強大な軍隊と官僚組織を持つにいたったマウリヤ朝であった。第3代のアショーカ王の時代にマウリヤ朝は最盛期に達し、その領土は南端を除く大部分のインド亜大陸におよんだ。しかしアショーカ王は、⁹紀元前3世紀前半に激戦のうへ征服に成功した国を訪れた際、その戦禍に衝撃をうけ、それを機に武力による統一政策を転換してしまう。以後、¹⁰王は仏教に深く帰依し、仏教精神にもとづく統治をめざし、社会事業を進め、さらに仏教の保護と国外への布教にもつとめた。王は仏教信仰にもとづく政治理想の実現のために、周辺諸国の王のもとへ使節を派遣した。使節の赴いた諸国では病院や薬草園などがつくられ、それを聞いたアショーカ王は大変喜んだという。

<設問>

(1) **1** が、のちに樹立する王朝として適切なものは、次のうちどれか。

- | | |
|-----------------|--------------|
| a. クシャーナ朝 | b. シャイレーンドラ朝 |
| c. チョーラ朝 | d. ナンダ朝 |
| | e. パガン朝 |

ドラヴィダ人は、北インドから伝わった諸制度を採用しつつ、大小多数の王国を建設してきた。南インドに興亡した諸王朝の中でも、9世紀中ごろタミル地方に興ったチョーラ朝がとくに名高い(～13世紀)

(2) **2** にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| a. 馬と戦車 | b. 戦車と火薬 |
| c. 火薬と馬 | d. 火薬と組織された重装歩兵 |
| e. 戦車と組織された重装歩兵 | |

(3) 下線部3に関連した事柄の説明として、適切でないものは次のうちどれか。

- | |
|---|
| a. インド＝アーリヤ系諸民族とヨーロッパ系諸民族との、深い民族的・文化的関係が立証されたのは、グリム兄弟がおこなった言語研究がきっかけであった。 |
| b. イラン高原からインド北西部に移住するとき、アーリヤ人はカイバル峠を越えた。ここは古くから交通の要衝であり、大乘仏教が北方へ伝えられるときにもこのルートを通った。 |
| c. 「アーリヤ」とは「気高い、高貴な」という意味であり、彼らが自らを称して使っていた。 |
| d. インドを中心にみられる牛を神聖視する風習は、アーリヤ人の風習が現在に受け継がれたものである。 |

e. 『リグ・ヴェーダ』は、アーリヤ人の自然崇拜が賛歌や儀礼集というかたちでまとめられたものであり、数種類ある『ヴェーダ』のなかで最後に集大成されたものである。

(4) 4 にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. ヴァルナ b. カスタ c. カルマ d. ジャイナ
e. ジャーティ

(5) 5 にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. 漁労社会 b. 巡礼都市 c. 商業都市 d. 農耕社会
e. 遊牧社会

(6) 下線部6に関する説明として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. バラモンは他の階層に重税を課したため、不安や反発がいきなり高まったが、新しい宗教はこの苦難に耐える価値を説いたので社会的騒乱は抑止された。
- b. 新しい宗教は、バラモンの祭りが形式主義に陥って形骸化したことを批判し、勢力を拡大しつつあった商人や職人たちに歓迎された。
- c. バラモン教は厳しい身分的宗教戒律を定めていたため、新しい宗教が登場するとバラモン内部からもその支持者が多く出た。
- d. 新しい宗教は、民衆から離れていたバラモン教の精神を生活実践のなかにとりいれる試みを含んでいた。
- e. バラモン教は異民族が次第に増える社会に対応する術を失っていたが、新しい宗教は民族を問わないため、アーリヤ人以外の流入民族がその主な担い手となった。

(7) 下線部7に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. 個人的な解脱という目的から万民の救済を目的とする仏教へと変化して成立したのが、小乗仏教である。ナーガールジュナは小乗仏教の理論書『中論』を著した。
- b. 仏陀とは悟りを開いた者のことを意味し、菩薩とは、厳しい修行中の者を見守る仏の慈悲の心を意味している。菩薩は民間への布教に大きな役割を果たした。
- c. 義浄は、グプタ朝が建立したナーランダール寺院で学び、インド、南海を経て帰国したが、この途中、スマトラ島で当時まだ造営中のボロブドゥールに立ち寄った。
- d. 上座部仏教は、形式化しがちな戒律に厳しく縛られることなく、長老たちの知恵を伝承することによって救済の道を模索した仏教分派である。スリランカで発展した。
- e. ラマ教とは、伝播した大乘仏教とチベット固有の土着宗教とが融合したものである。吐蕃の国教となるがその末期には衰退し、再び元朝時代に国家の保護をうけ栄えた。

(8) 下線部8に関する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. マガダ国の王(→王子)ラーマが、奪われた愛妻の救出をする英雄叙事詩である。
- b. 商業が発展した時代状況を反映して、登場人物はすべてヴァイシャ(→クシャトリヤ)である。
- c. 戦禍の悲しみをテーマにした四行詩集であり、現世の無常を説いたものである。『マハーバーラタ』の内容
- d. 仙人の娘と若き王が恋を成就させるまでの冒険物語である。『シャクンタラー』の内容
- e. サンスクリット語で書かれ、4世紀ころに現在の形式がととのった。

(9) 下線部9の国は、次のうちどれか。

- a. アンガ国 b. カピラ国 c. カリంగా国 d. クル国 e. コーサラ国

(10) 下線部10に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. アショーカ王は、釈迦の没後はじめて、釈迦の教説を集め編集する「仏典結集」をおこなった。
- b. アショーカ王は、ストゥーパとよばれる石柱に、ダルマの理想政治にもとづく自らの勅令を刻ませた。
- c. アショーカ王は、仏教の理想を伝える使節を漢の武帝のもとに送った。
- d. アショーカ王は、自らの王子を布教のためにスリランカに派遣し、その地の仏教化に成功した。
- e. アショーカ王の死後も、マウリヤ朝は約2世紀のあいだ存続した。

【2】 成城大学 経済学部

つぎの文章を読んで、後の設問に答えよ。

古代インドにおいて成立した仏教とヒンドゥー教はともに、インド北部においてはるかに以前から有力な宗教であった **a バラモン** 教の影響のもとに形成された。(A) **a** 教の成立にかかわる文化的伝統は、インド＝ヨーロッパ系の **b アーリヤ** 人が、前 1500 年頃、中央アジアからパンジャブ地方に侵入して住みつき、さらに前 1000 年頃以降、東のガンジス川流域へと進出する歴史の長い時間のなかではぐくまれてきた。その長期にわたる民族移動の過程で定住も進み、農業生産が向上して余剰が増大し各地に都市国家が形成される。それにともない、

b 人支配層が先住民などを階級的に支配する社会構造も確立されて、今日にいたるまでの (B) インド社会に特有の複雑で固定的な身分秩序の基礎 がかたちづくられることになる。

前 500 年頃の **c ガウタマ=シッダールタ** を開祖とする仏教の発祥には、(C) そうした階級・階層社会にたいする批判の一面もみられる。それにたいして、その後に隆盛するヒンドゥー教は **a** 教を直接の母体としその伝統を継承しつつ、さらにインドの (D) 民間信仰 や仏教の要素をとりいれながら発展し、インド的な身分秩序の維持に即応する側面が濃厚である。ヒンドゥー教は、とりわけ 4 世紀に成立した **d グプタ** 朝の時代から盛んになる。ところが仏教は、その頃からヒンドゥー教に吸収されるようなかたちで、(E) インドにおいてはしだいに衰退し、後のインドのイスラム化の過程で決定的な打撃を被る ことになる。

問 1 文中の空欄 a～d を埋めるのに最も適切な語句を記せ(同一記号は同一語句)。

問 2 下線部(A)について、

- (1) この宗教の神々への讃歌を記した文献から当時の文化をうかがい知ることができる。その神々への讃歌の文献を総称して何と呼ぶか。 **ヴェーダ**
- (2) 上記(1)に関連して、この宗教に独自の哲学的思索について記した「奥義書」とも訳される聖典は何か。
ウパニシャッド
- (3) 上記(1)の文献の記述に使用された言語から発達して洗練され、インドの古典の表記に古代から用いられてきた、梵語ともいわれるインド＝ヨーロッパ語系の言語は何か。 **サンスクリット語**

問 3 下線部(B)について、

- (1) この身分秩序の基軸として、四つの「種姓」と訳される階級構造がある。種姓にあたるインドの言葉をカタカナで記せ。
ヴァルナ
- (2) 上記(1)に関して、四つの種姓のうち、下層の被征服民の種姓を何と呼ぶか。 **シュードラ**
- (3) 上記(1)の種姓に、さらにジャーティといわれる多様な出身集団が組み合わさり構成されたインド固有の身分秩序をポルトガル語起源の言葉で一般に何と呼ぶか。 **カースト**

問 4 下線部(C)について、

仏教の発祥と同じ頃に、これと同様の批判的な観点をもって登場し、しかも、今日のインドにも約 400 万人の信者がいる、不殺生・肉食主義の宗教は何か。 **ジャイナ教**

問 5 下線部(D)について、

民間信仰をとりいれることにより、さまざまな神々が生み出され民衆に信仰されるようになったが、なかでもヒンドゥー教の最高神とされる二つの神々の名前を記せ。 **シヴァ神・ヴィシュヌ神**

問 6 下線部(E)について、

- (1) 仏教は、インドにおいては衰退していったが、その後も、一方では中国やチベットや日本で、他方では東南アジアなどで盛んに信仰されるようになる。そのうち前者にあたる、おもにインド以北の地域で信仰されるようになった仏教を総称して何と呼ぶか。 **大乘仏教**
- (2) 上記(1)の、北方に伝わった仏教の教義について思索してまとめ、中国や日本の思想にも影響をもたらした、日本の仏教界でも南都六宗・天台宗・真言宗の「八宗の祖師」と仰がれた、2～3 世紀の南インド出身の仏教理論家は誰か。
ナーガールジュナ

演習追加問題(古代オリエントとユーラシアの帝国・古代インド)

【1】 京都大学

次の文章(A, B)の の中に最も適切な語句を入れ、下線部(1)～(12)について後の問に答えよ。

A 古代オリエントでは、大河の流域で、はやくから灌漑農業が行われ、定住が進み、都市を中心とした文明が生まれた。

メソポタミアでは、前 3000 年頃からシュメール人が、 a ユーフラテス 川下流域のウル・ウルクなど様々な都市国家を築いた。

前 24 世紀頃これらの都市国家を征服してメソポタミアを統一したのがセム語族の b アッカド 人である。その後、同じセム語族の

(1) アムル人が強力な国家を建設し、前 18 世紀前半ハンムラビ王のとき全メソポタミアを支配下に置いた。この王国は、小アジアに建国したヒッタイトに滅ぼされた。一方、エジプトでは前 3000 年頃までに最初の統一王国が生まれ、古王国はメンフィス、中王国はテーベを中心に栄えた。新王国では、前 14 世紀半ば(2) アメンホテプ 4 世が改革に着手して遷都すると、新都を中心に写実的な

c アマルナ 美術が生まれた。エジプト王国とヒッタイト王国が弱体化すると、シリア・パレスティナでは、セム語族の 3 民族、

d アラム 人・フェニキア人・ヘブライ人が活動を開始した。(3) d アラム 人は前 1200 年頃からダマスカスを中心に内陸交易で活躍し、フェニキア人は沿岸部にシドン・ティルスなどの都市国家をつくり、地中海交易を独占した。前 7 世紀前半に古代オリエントはアッシリア王国により統一され、その崩壊後はイラン人が大帝国 e アケメネス 朝ペルシアを建設したが、前 4 世紀後半アレクサンドロス大王がこれを滅ぼした。アレクサンドロス大王没後、そのアジアの領土はセレウコス朝に受け継がれたが、前 3 世紀半ばにはバクトリアが独立し、またイラン系のパルティアが建国された。パルティアが f ティグリス 川河畔に築いたクテシフォンは、

パルティアおよびこれを倒した王朝の首都となった。ヘレニズム時代に最も繁栄したのがプトレマイオス朝で、首都 g アレクサンドリア には研究所・図書館が建設され、学問の中心となった。プトレマイオス朝が滅びローマ帝国が拡大すると、(4) アラビア半島やシリア砂漠のオアシス諸都市は隊商都市として繁栄した。7 世紀初めアラビア半島西部の交易路上の都市にイスラームが興った。預言者ムハンマドと第 3 代までの正統カリフは h メディナ を活動の拠点としたが、その後成立したウマイヤ朝はダマスカスを首都とした。(5) 8 世紀後半にアッバース朝が新都バグダードを築くと、この都市は、13 世紀後半カイロにとって代わられるまで、イスラーム世界の政治・経済・文化の中心として繁栄した。東方では 10 世紀にサーマーン朝の首都 i ブハラ , 11～12 世紀にはセルジューク朝下の主要なイラン都市においてイラン＝イスラーム文化が栄えた。

ブハラは古くからソグド人の商業で栄えた中央アジアのオアシス都市であり、サーマーン朝の首都となつてからは、ソグディアナ地方の政治的中心となった。

問

(1)

(7) この王国(王朝)の首都の名を記せ。 **バビロン**

(4) この首都の位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **K**

(2) この新都の位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **C**

(3) ダマスカスの位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **F**

(4) シリア砂漠にあり、3 世紀後半には女王ゼノビアの統治下に繁栄し、現在その遺跡がユネスコ世界遺産として有名な隊商都市の名を記せ。 **パルミラ**

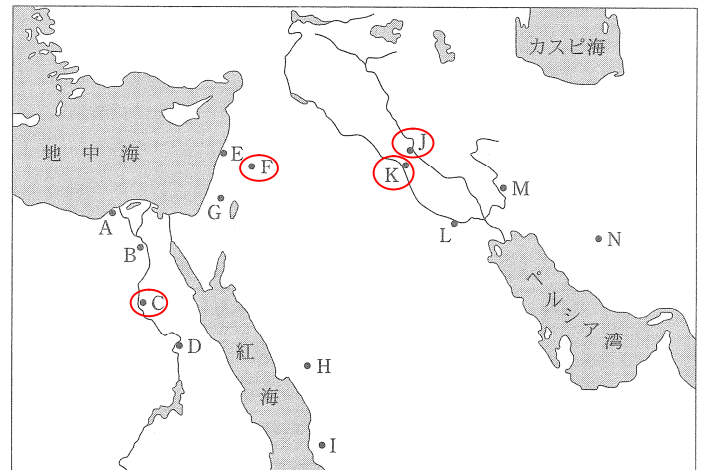
パルミラとはシリア砂漠の中央にあるオアシス都市であり、

現在シリアに属し、タドモルとよばれる。ヘブライ王国のソロモン王は

東方物資輸入の前線基地とした。紀元前 1 世紀ごろからシルク＝ロード上の中継交易都市となり、ローマ帝国の傘下に入って急速に発展した。

3 世紀後半に登場した女王ゼノビアはローマ帝国に独立を宣言したが、アウレリアヌス帝に攻略された。都市構造、政治形態、宗教、言語、美術を含む文化全般に、ギリシア、ローマ、ペルシア、エジプトなど東西文明の影響がみられる一方、シリアの伝統を継承するパルミラ独特の性格が認められる。遺跡の墓室から漢代の中国製絹織物が出土している。なお、パルミラの遺跡は 1980 年に世界遺産の文化遺産(世界文化遺産)として登録されたが、内戦により甚大な被害を受けたとして、2013 年には危機遺産リスト入りしている。

(5) バグダードの位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **J**



(注：海岸線および河川の流路は現代のものである。)

B 16～17 世紀、ユーラシアの東西にふたつの帝国が形成され始める。やがて、ともに巨大化したのち、いずれも政体は変化したか、国としての大きなかたまりは現在まで続いている。すなわち、ロシア連邦と中華人民共和国である。

それぞれの源流・発端は、ある意味でモンゴル帝国と無縁ではない。⁽⁶⁾ ルーシと呼ばれた地域は、ゆっくりとモンゴルからの自立姿勢を強め、やがて 16 世紀半ば、王となった j **イヴァン 4 世** はカザンとアストラハンのふたつのモンゴル国家を接収してヴォルガ流域を制圧し、⁽⁷⁾ そこから東方にむけて少数の兵を派遣した。かくて、17 世紀前半には太平洋岸にまで到達する。こののち、⁽⁸⁾ ロシアはアジアとヨーロッパにまたがる広大な勢力圏を保持することになる。なお、黒海に臨む一帯には、1783 年まで k **クリム＝ハン国** というモンゴル国家が存在し続けた。

クリム＝ハン国はキプチャク＝ハン国から自立してクリミア半島に建設されたムスリムの政権であり、1475 年以降はオスマン帝国の宗主権下に置かれ、18 世紀後半にロシアが奪いとった。

一方、アジア東方では、かつてモンゴル治下にあった^{だいこうあんれい}大興安嶺以東の l **女真 [女直]** 族のなかからヌルハチが台頭し、1616 年にはハンを称した。ついで、⁽⁹⁾ その子の m **ホンタイジ** は 1636 年に、本来は“主人筋”であった内モンゴル諸王侯に^{すいたい}推戴されて、大元国(ダイオン＝ウルス)をひきつぐ帝王として即位し、国号を大清国(ダイチン＝グルン)とした。これ以後、清朝は満蒙連合政権の性格を色濃くおびた。そして 1644 年に明朝が減ぶと、⁽¹⁰⁾ 清は入関して北京に入り、否応なく中華本土も包み込む多元帝国となっていく。 ⁽¹¹⁾ 康熙帝・ n **雍正帝** から乾隆帝にいたる三人の皇帝の治世は、外モンゴルおよび o **チベット** 仏教文化圏をめぐって、やはりモンゴル帝国以来の由緒をもつ p **ジュンガル** と激しく争いあう時代でもあった。

ジュンガルはオイラトの一部族とその国家であり、17～18 世紀中頃にかけてイリ地方からタリム盆地で強勢を誇った。ジュンガル部の首長ガルダンがオイラト諸部族を統合して外モンゴルから青海・チベットにも勢力を拡大したが、親征した康熙帝に敗れ、さらに 1755～58 年にかけての戦いで乾隆帝によって滅ぼされた。

⁽¹²⁾ 清朝は 1755 年から 59 年にかけて、ついにパミール以東を制圧し、現在に続く巨大な版図を樹立したが、1793 年に乾隆帝のもとを訪れた

q **マカートニー** が率いる使節団の目には、“虚飾の老大国”に見えていたのも一方の事実であった。

問

(6) ルーシを含むユーラシアの西北部を支配したこのモンゴル国家は何というか。 **キプチャク＝ハン国**

(7) 1582 年にシビル＝ハン国の首都を占領したのは誰か。 **イェルマーク**

イェルマークはコサックの首領であり、イヴァン 4 世からシベリア開発の許可を得た豪商ストロガノフ家につかえ、ウラル山脈をこえてシビル＝ハン国の首都シビルを占領し、ロシアのシベリア進出を進めた。

(8) ロシアは、ある山脈を境に、そこから東方の大地をながく属領視することになった。何という山脈か。 **ウラル山脈**

(9) このときの首都はどこか。 **瀋陽**

瀋陽(盛京)は中国東北地方の都市であり、1625 年ヌルハチが都とし、太宗が盛京と改称した。44 年北京に遷都としてからは副都となり、日本では奉天と呼んだ。

(10) このときの清朝の皇帝は誰か。 **順治帝**

(11) 康熙帝時代に国境画定をめぐってロシアとの間で結ばれた条約を何というか。 **ネルチンスク条約**

(12) このとき清軍の一部はパミールをこえて西南方にも進出し、アフマド＝シャーによって建国されてからまもない国家に接近した。何という王国か。 **アフガニスタン王国**

アフガニスタンは 1212 年にはチングス＝ハンの侵入を受け、モンゴルの支配下に入ったが、アフガニスタンは、アフガン系のカルト朝のもとに実質上独立した政権を維持した。14 世紀後半以降、ティムール朝、次いでサファヴィー朝の支配下に入ったが、1747 年ナーディール＝シャーが暗殺されると、アフマッド＝シャー・ドゥラーニーがアフガニスタン全土を平定して王位につき、初めてアフガン人の政治的独立を達成した。

【2】京都大学

次の文章(A, B)を読み、 の中に最も適切な語句を入れ、下線部(1)～(14)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A インド亜大陸の文明は、インダス川流域の遺跡モエンジョ＝ダローやハラッパーを代表とするインダス文明の時代に始まる。この文明の衰退後、紀元前 1500 年頃からインド＝ヨーロッパ語系のアーリヤ人が、パンジャブ地方に進出し始めた。アーリヤ人の社会組織や宗教文化は『リグ＝ヴェーダ』をはじめとするヴェーダ文献の中に記録されている。インドに入ったアーリヤ人の宗教は⁽¹⁾

バラモン教であり、この教えが基盤となって、その後様々な要素が加わり、歴史的な変遷を経ながら、現代の **a ヒンドゥー** 教へとつながっている。前 6 世紀には、ブッダと尊称される **b ガウタマ＝シッダータ** の説いた仏教と、マハーヴィーラの尊称を持つヴァルダマーナを始祖とする **c ジャイナ** 教が興った。このふたつの宗教はバラモン教の祭式やヴェーダ聖典の権威を否定した。

前 4 世紀に ⁽²⁾アレクサンドロス大王の東方遠征がインダス川流域にも及び、周辺に混乱が起こった後、⁽³⁾ガンジス川流域に首都をおいた **d マウリヤ** 朝が成立し、⁽⁴⁾アショーカ王の時代に最盛期を迎え、南端部を除くインド亜大陸の全域を支配した。アショーカ王は仏教に帰依し、法(ダルマ)に基づく統治を宣言する詔勅文を石柱や岩壁に刻ませた。アショーカ王の死後、**d マウリヤ** 朝は衰退し、紀元後 1 世紀に中央アジアのイラン系民族とされる **e クシャーナ** 族の勢力がインダス川流域にも及び、**e クシャーナ** 朝を建てた。この王朝は 2 世紀半ばの **f カニシカ** 王の時代が最盛期で中央アジアからガンジス川中流域までを支配し、仏教を庇護し、⁽⁵⁾首都プルシャプラを中心とする **g ガンダーラ** 地方でも、仏像が製作され始めた。4 世紀には **d マウリヤ** 朝と同じ都市に首都をおいたグプタ朝が勃興し、⁽⁶⁾チャンドラグプタ 2 世の時代に最盛期を迎え、北インド全域を支配した。グプタ朝の時代には仏教や **c ジャイナ** 教のほかに **a ヒンドゥー** 教が社会に浸透、定着し始め、バラモンの使用する言語であるサンスクリット語の文学作品や、バラモンの特権的な地位を強調した法典である **h マヌ法典** が、現在伝えられるような形にまとめられた。

グプタ朝の滅亡後、7 世紀前半にはヴァルダナ朝のハルシャ王が北インドを支配したが、その死後 ⁽⁷⁾北インドには強力な統一政権の存在しない状況が長く続いた。

a	b	c	d
e	f	g	h

問

- (1) バラモンは祭儀を司る祭司階級のことであるが、バラモンを最高位とし、クシャトリヤ(王侯、戦士)、ヴァイシャ(農民、牧畜民、商人)、シュードラ(隷属民)などによって構成される古代インドの身分制度を何というか。〔 **ヴァルナ** 〕
- (2) アレクサンドロスが前 334 年東方遠征に出発した目的は、東方のある国を討つためであった。当時その国を支配していた王朝の名を記せ。〔 **アケメネス朝** 〕
- (3) **d マウリヤ** 朝が首都をおいた都市の名を記せ。〔 **パータリプトラ** 〕
- (4) この王の時代にスリランカ(セイロン島)へ仏教の布教が行われたという伝説がある。スリランカからさらに東南アジアへ伝えられ、現代でもタイやミャンマー(ビルマ)などの国々に多くの信者を有している部派仏教は何と呼ばれるか。〔 **上座部仏教** 〕
- (5) インド中部において、より古い時期から仏像が製作された、ヤムナー河畔にある都市の名を記せ。〔 **マトゥラー** 〕
マトゥラーはヤムナー川南岸にあるインド北部の都市であり、ヴィシュヌ神の化身クリシュナの生誕地として知られる一方、赤砂岩を材料として、薄手の衣をまとった純インド風仏像の生産地である。
- (6) この王の時代に、中国の東晋からインドを訪れて旅行記を著した仏僧の名を記せ。〔 **法顕** 〕
- (7) 8 世紀の初め、西方からイスラーム教徒の軍隊がインダス川下流域のシンド(シンド)地方に侵攻した。当時、西アジアと北アフリカを支配していたアラブ人を中心とするイスラーム教徒の王朝の名を記せ。〔 **ウマイヤ朝** 〕
- B **i 後周** 王朝の殿前都点検として軍を掌握した趙匡胤は **i 後周** の恭帝から禅譲を受けて帝位につき、宋を建国した。唐末以来、地方に軍閥が割拠して中央の政権を弱体化させる状況がつづいていたので、彼は節度使の権限を縮小するほか、軍政を司る枢密院を強化して中央集権化をすすめた。10 世紀末から 11 世紀初頭にかけて、契丹は燕雲十六州を足場として南進をはかり、東にむかっては ⁽⁸⁾高麗に攻勢をかけた。 **j 興慶府** を都とした西夏も宋にとって脅威の一つであった。こうした情勢のもと、宋の政府は歳入の不足に苦しんだ。
- 興慶は西夏を建国した李元昊が興州を興慶府と改め、首都とした。のち中興府と改称し、当時の東西交通の要地となった。1227 年モンゴルにより攻略され、エリガヤ(額里合牙)、元朝には寧夏府路、明朝に寧夏衛、清朝に寧夏府と改められた。**
- 王安石は「万言書」として知られる改革案を提起して頭角をあらわし、神宗に登用されると制置三司条例司を設置して ⁽⁹⁾「新法」とよばれる一連の政策を実施した。
- 宋代には海上交易が盛んであり、政府は沿岸の港市に **k 市舶** 司を置いて貿易を管理し、収入の増大をはかった。 ⁽¹⁰⁾インド洋

方面からイスラームを信奉する商人が多く来航し，東南沿岸部に定住するものもいた。インド文化が優勢であった東南アジアでは港市を中心としてイスラームが浸透し，⁽¹¹⁾スマトラ島，ジャワ島，マレー半島にとどまらず，今日までスルタンの政権がつづいているブルネイが位置する

1	ボルネオ	[カリマンタン]
---	------	----------

 島やフィリピン諸島の沿岸部にムスリムの活動がひろがった。

ボルネオ島はインドネシアではカリマンタン島という。南シナ海の南端に位置する世界第3位の面積をもつ島である。15世紀以降，ブルネイ王国をはじめ諸王国がイスラーム化した。16世紀以降はヨーロッパ列強が侵入し，1841年にはイギリス人ジェームズ＝ブルックがサラワクに国家を樹立し，その間南半分にオランダが支配権を確立した。インドネシア独立後，カリマンタンの4州体制が確立し，サバ，サラワクは63年にマレーシア連邦に参加した。ブルネイは84年に独立した。

i	j	k	l
---	---	---	---

- 問 (8) 高麗の建国者は誰か。 [王建]
- (9) 「新法」のうち，差役(徭役)を銭納化するものの名を記せ。 [募役法]
- 募役法は中国，宋の王安石の新法の一つである。宋代には農村の租税徴収，治安維持，官物の輸送などに農民を徴発する差役法が実施され，中小地主や自作農の過重な負担となっていたが，その改善策として王安石が1070年から実施したものである。農民の力役の代りに免役銭を出させ，これを財源に政府が失業者を低賃金で雇う方法であるが，従来免役の特権をもっていた官戸や商人などからも約半額の助役銭を出させたので，これらの人々の反感を買うことになった。
- (10) 14世紀前半の北アフリカから中国におよぶ広大な地域の情報を記した旅行記の作者として知られる人物は誰か。 [イブン＝バットゥータ]
- (11) この島の北端近くの港市は，15世紀にその支配者がイスラームに改宗して中国とも交易した。この港市を中心とした国家の名を記せ。 [アチェ王国]
- アチェ王国はスマトラ北西端に15世紀末から20世紀初頭にかけて存在したイスラーム国家である。ポルトガル人のマラッカ占領後，これに敵対する近隣諸国の盟主となり，17世紀前半のイスカンダル＝ムダ王の時代が最盛期であった。その後衰退して19世紀には数州に分裂していたが，同世紀末に起ったアチェ戦争の結果，オランダの支配下に入った。

演習追加問題(イスラーム世界①)

【1】 中央大学 法

つぎの文章(A～B)は、イスラーム世界の発展について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。

A 7世紀にイスラーム教を創始しアラビア半島全土に影響力を持ったムハンマドは、カーバ神殿のある(ア **メッカ**, a)の商人クライシュ族の出身であった。それまで古代帝国に支配されたことのないアラビア半島は、新宗教の揺籃の地として適しており、周辺の一帯には今日までイスラーム文化にとって重要な諸都市が見られる。

正統カリフ時代にアラビア半島をこえて征服活動を展開したムスリム軍は、要地に軍事都市(ミスル)を設けた。ミスルから発展した都市として、アズハル＝モスクのある(イ **カイロ**, c)があげられる。モスクに併設されたアズハル学院はシーア派の学問の中心として栄えたが、(1 **アイユーブ**)朝のサラディン(サラーフ＝アッディーン)の時代に入ってからスンナ派に宗旨替えした。なお、サラディンの墓は、ウマイヤ朝の創始者であるムアーウィアがカリフの地位を宣言し、首都とした都市(ウ **ダマスカス**, f)にある。

アラビア半島に近い(エ **バグダード**, g)は西暦762年、(2 **アッバース**)朝の第2代カリフであるマンスールによって造営された都である。都の中央には王宮やモスクが建てられ、その周囲には諸官庁が置かれた。やがてユーフラテス川から運河が引かれたことにより、交易拠点として発達した。

これらの都市においては、モスクやバザール、隊商宿などが整備され、都市間交易の拠点となった。イスラーム法(シャリーア)の下で小切手・手形などの決済システムが整備され、^(a)ワクフという制度も導入された。これらの発想は、近代西欧資本主義法制にも大きな影響を与えたといわれる。

B そもそも預言者が商人であったため、商業を卑しめなかったイスラーム教は、こうして公平な商取引をすすめる宗教として急速に発展した。さらに早くから共通語としてのアラビア語と、共通文化としてのイスラーム法(シャリーア)マドラサで教育をうけた知識人^(b)ウラマーによる指導などが、人々に受け入れられたため、イスラーム世界は地理的に拡大したのちも文明としての一体感を維持することができた。

10世紀前半にはイスラーム教諸国が地中海世界で隆盛をきわめた。イベリア半島の後ウマイヤ朝、北アフリカの(3 **ファーティマ**)朝、アラビア半島からシリアに至る(2 **アッバース**)朝が並び立った。さらにアナトリア(小アジア)も、11世紀後半には(4 **セルジューク**)朝の攻勢をうけてイスラーム化されていった。『世界史序説』を著した歴史家(5 **イブン＝ハルドゥーン**)はこの時代について「キリスト教徒は板子一枚地中海に浮かべることはできなかった」と形容している。

板子＝船の底に敷くあげ板。

北アフリカではその後、(3 **ファーティマ**)朝に対抗するスンナ派の運動が活発となり、これをうけてモロッコにはムラービト朝が成立した。この王朝はガーナ王国を征服してアフリカ大陸西部から^(c)サハラ越えの交易路を確保した結果、首都(オ **マラケシュ**, k)をはじめ多くの都市の繁栄を導いた。その東方で、12世紀に十字軍をシリアから追い払った王朝とその後継王朝もまた、(6 **カーリミー**)といわれる商人集団に国際交易を担わせ、^(d)インドとヨーロッパ世界を中継する香辛料貿易などによって莫大な利潤を得た。

インドでは13世紀にアイバクがイスラーム王朝を創始し、それに続く4王朝とあわせてイスラーム文化の定着が進んだが、この時期にはヒンドゥー教徒の小王国にも大幅な自治を認めた。

アイバクはインド、ムスリム王朝である **奴隸王朝** の創始者 (在位 1206～10) 。 **ゴール朝** のムハンマド (ムハンマド・ゴリー) の武将としてゴール朝のインド領を支配していたが、ムハンマドの死後、独立してデリーを都とする王朝を創始した。デリー郊外に現存する有名なイスラーム建築 **クトゥブ・モスク** は彼の時代に建設に着手したもの。

16世紀に建国されたイスラーム王朝のムガル朝でも、ヒンドゥー教徒に対する融和政策がとられたが、**アクバル**はムガル帝国第3代の皇帝 (在位 1556～1605) であり、13歳という若年でムガル帝位についた。彼の治世はスール朝に敗れて基礎のゆらいだムガル帝国を内政、外交、軍事、宗教政策などのあらゆる面で再

建し、ムガル帝国の繁栄の礎石を築いた時代であり、のちにムガル帝国歴代の皇帝中最も偉大な皇帝としてアクバル大帝と称された。彼は重臣にイスラーム教徒だけでなく、ヒンドゥー教徒も登用し、ジズヤ（非イスラーム教徒に課する人頭税）を廃止するなどヒンドゥー教徒との融和に努力した。インド西部に割拠した ラージプート 諸勢力との同盟にも努力し、アンベールの王女を妻とするなどの政策により、ラージプート諸族のほとんどを味方につけた。このような政策によってデリーを中心とする北インドを安定させたのち、ムガル帝国の版図を拡大した。内政の面では、土地の測量を行わせ、地味によって等級に分け、単位面積あたりの税率を決定する地稅徴収方法を採用した。彼は宗教の面でも、イスラーム教、ヒンドゥー教、ゾロアスター教などの諸宗教の融和に努力しただけではなく、みずから諸宗教を融合した新しい宗教（神聖宗教）を創始したが、それへの改宗を強制することはなかった。

ムガル朝第 6 代皇帝の（ 7 アウラングゼーブ）はヒンドゥー教徒への人頭税を復活させ、ヒンドゥー寺院を破壊するなど圧迫を加えた。

設問 1 空欄(1～7)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問 2 空欄(ア～オ)には都市名が入る。それぞれ都市名を答えなさい。また、地図上の位置として適切なものを、つぎの図から選択し、マーク解答用紙にマークしなさい。

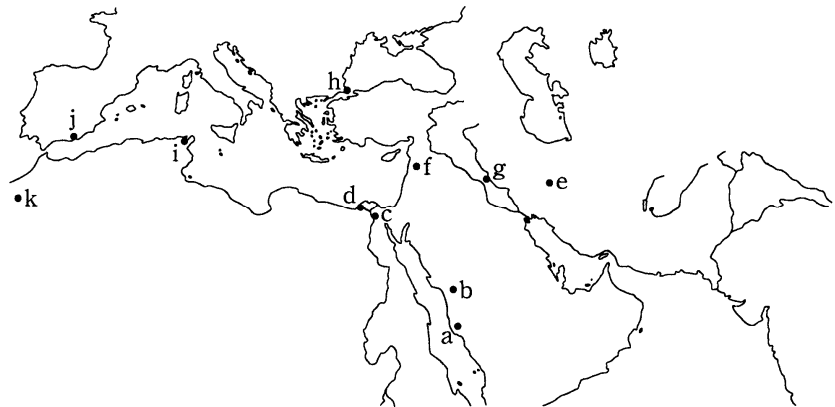
設問 3 下線部(a)について。

これはどのような制度か。

25 字以内で説明しなさい。

公共施設の維持・運営のための
不動産等を寄付する(制度)

※所有権放棄のこと



設問 4 下線部(b)について。代表的なウラマーで、『三大陸周遊記』（『旅行記』）を著した人物は誰か。その名前を答えなさい。イブン＝バトゥータ

設問 5 下線部(c)について。この交易路を経由してこの王朝に入ってきたものとして誤っているのはどれか。

1 つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 奴隸 ② 金 ③ 陶磁器 ④ 象牙
⑤ 皮革

設問 6 下線部(d)について。以下の文章はこの貿易について、より詳しく記述したものである。文章中の下線部(あ～え)の記述は正しいか。正しければ①、誤っていれば②をマーク解答用紙にマークしなさい。

12 世紀末、(あ)シーア派②マムルーク朝のこの王朝が紅海の貿易を掌握し、東方物産の地中海への積み出しを独占した。典型的なルートとしては、アデンなどでインド商人から香辛料を受け取り、アレクサンドリアに運んで(い)イタリア商人①に売り渡した。13 世紀半ばにこの王朝を継承した王朝も、ムスリム商人を(う)アレクサンドリア②都はカイロに集住させて東西交易を奨励した。アラビア半島やイランのムスリム商人は、ダウ船と呼ばれる三角帆の船を操り、インド西海岸の(え)カルカッタ②カルカッタはインドの東海岸などでインド洋の物産を積み込んでペルシア湾沿岸の諸港市に陸あげし、陸路でコンスタンティノーブルやシリア諸港に至った。

【2】 明治大学 経営

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

アラビア半島は非常に乾燥した地域であるが、インド洋と地中海を結ぶ重要な位置を占めており、⁽¹⁾人々はこの地域の实情に即した生活を長年にわたって続けてきた。7 世紀になるとメッカ出身のムハンマドは、神への絶対的帰依を基礎とする新しい信仰を呼びかけ、その信徒たちの共同体は短期間のうちにアラビア半島のほぼ全域を支配下に置いた。こうしてイスラーム世界の歴史が始まる。

ムハンマドの死後には(2 アブー＝バクル)がカリフに選ばれ、⁽³⁾正統カリフ時代に入った。この時代にはムスリムの支配領域が拡大した一方で、カリフの地位などをめぐって内部対立もみられた。4 人の正統カリフの後、661 年にムアーウィヤがカリフの地位を獲得して、⁽⁴⁾ウマイヤ朝が成立した。彼をカリフと認めない人たちはシーア派を形成し、ウマイヤ朝の政権を認めた人々はスンナ派を形成することになる。

8 世紀には、ウマイヤ朝の政策に対する不満が高まり、そうした声を背景にアッバース家が(5 ホラーサーン)をホラーサーンとはイラン東部からヒンドゥー・クシ山脈以南までの地の歴史的名称。「太陽の昇る地」の意。

拠点としてウマイヤ朝打倒運動を起こし、750 年に、新たに⁽⁶⁾アッバース朝が成立した。この統治のもとで、イスラーム帝国は全盛の時代を迎える。

アッバース朝自体は 13 世紀まで続いたが、10 世紀に入ると各地で自立した政権が現れ、統治者としてのカリフの実力は低下した。1055 年にはトルコ系の人々がバグダードに入ってスルタンの称号を獲得し、⁽⁷⁾セルジューク朝が開始される。

信徒の共同体から発展したイスラーム世界は、領域を拡大するとともにさまざまな系統の人々を取りこんだ。⁽⁸⁾地域的な差異も大きく、宗教的見解にもとづく深刻な対立もみられたが、全体として、イスラーム教特有の考えを基礎に高度な社会制度や文化が広く普及した。たとえば、⁽⁹⁾裕福な人々は、自ら建設した住宅や店舗の用益権を寄進し、教育施設や病院、モスクなどの建設・運営にかかる費用はこれによってまかなわれた。イスラーム教自体が、商人の世界で成立した宗教であり、商取引は基本的に奨励され、⁽⁴⁾イスラーム世界は東西交易の中心地としても非常に栄えた。こうした繁栄にともない、⁽⁹⁾外部の影響を取り入れつつ、高度な学問も発達した。

設問 1. 下線部(1)に関して、イスラーム教が成立する以前のアラビア半島の情勢に関する以下の説明のうち、適切でないものを一つ選べ。

A. エジプト語系(ハム語系)のアラビア語を話す人々が活動していた。

アラビア語はセム語系に属する言語。アラブ人のことばであるが、イスラーム教の拡大にともない、『コーラン(クルアーン)』の言葉としてイスラーム教徒のあいだで共通言語・普遍言語となった。

B. メッカには多神教の神殿が存在した。

C. メッカはクライシュ族などによる商業活動の拠点であった。

D. 一神教の思想も伝えられていた。

E. ササン朝、ビザンツ帝国、エチオピアなどが進出を試みていた。

設問 2. 空欄(2)に最も適する人名を一つ選べ。

A. アリー

B. アイバク

C. アブー＝バクル

D. ウマル

E. マンスール

設問 3. 下線部(3)に関する以下の説明のうち、最も適切なものを一つ選べ。

A. 政権の拠点はメッカ→メディナにあった。

B. アター→ミスルと呼ばれる軍営都市が各地に建設された。

C. カリフは有力信徒たちによる選出で決められた。

D. シリアやモロッコなどに支配領域を広げた。

E. アリウス派を信仰する多くのゲルマン人がイスラーム教に改宗した。

設問 4. 下線部(4)に関する以下の説明のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- A. ムアーウィヤは、ムハンマドと同じハーシム家の出身である。
- B. 東部の領土はガンジス川まで達した。
- C. 貨幣としては銀貨だけが用いられた。
- D. 異教徒から徴収するジズヤを途中で廃止した。
- E. マワーリーと呼ばれる被征服民の改宗者が増加した。

設問 5. 空欄(5)に最も適する語句を一つ選んでマークしなさい。

- A. イエメン B. アルメニア C. ヒジャーズ D. ホラーサーン E. マグリブ

設問 6. 下線部(6)に関する以下の説明のうち、適切でないものを一つ選べ。

- A. ティグリス河畔のバグダードが首都として繁栄した。
- B. シャリーア(イスラーム法)の体系が徐々に整えられた。
- C. 帝国の交通・通信網の整備が進んだ。
- D. アミールと呼ばれる宰相の役割が高められた。

アミールとは一般的にはあらゆる集団の指導者の呼称。初期イスラーム時代は征服軍の司令官の、ウマイヤ朝・アッバース朝では地方総督の称号としてもちいられた。トゥールーン朝やサーマーン朝の君主は、この称号で呼ばれた。

- E. 特産品としての織物が各地に輸出された。

設問 7. 下線部(7)に関する以下の説明のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- A. トルコ語→ペルシア語が行政用語となった。
- B. 一部が小アジア半島に進出して、ルーム＝セルジューク朝をたてた。
- C. マンジケルトの戦いでガズナ朝→ビザンツ帝国軍の軍を破った。
- D. 哲学者イブン＝ルシュドが活躍した。

イブン＝ルシュドはコルドバ生まれの哲学者・法学者・医学者。アヴェロエスはラテン名。ムワッヒド朝では法官や宮廷医としてつかえた。最大の業績は、『政治学』を除くアリストテレスの全著作に対する注釈である。注釈書の多くは13世紀にラテン語に翻訳され、中世ヨーロッパのスコラ学に大きな影響を与えた。

- E. 宰相ウルグ＝ベクのもとで学芸が奨励された。

ウルグ＝ベクはティムール朝第4代君主(在位1447～49)。天文学の発達に貢献するなど学芸君主として名高い。息子との戦いに敗れ、殺された。

設問 8. 下線部(8)に関して、イスラーム世界の文化・社会に関する以下の説明のうち、適切でないものを一つ選べ。

- A. マドラサと呼ばれる学院が各地に建てられた。
- B. 共同出資や小切手・手形などの決済手段が発達した。
- C. 法学や神学を修めた聖職者であるウラマーが社会の指導にあたった。

ウラマーはイスラーム諸学(特に法学)をおさめた学者・知識人。ムスリムが多数を占めた社会では、イスラーム法に精通した法官として、社会秩序の維持に大きな役割を果たした。

- D. 幾何学文様や細密画が発達した。
- E. 一部のスーフィーは聖者として民衆からあがめられた。

設問 9. 下線部(ア)のような制度を何というか。 ワクフ

ワクフとはイスラーム教に特徴的な財産寄進制度。収益をうむ私財の所有者が、みずからの権利を放棄して、そこから生じる収益を特定目的(モスクやマドラサの運営など)に使うよう指定・寄進する、イスラーム法上の行為を指す。慈善ワクフは、社会福祉制度のなかった時代には大きな意味を持っていた。

設問 10. 下線部(イ)に関して、12～13 世紀に紅海を経由する貿易で活躍し、香辛料や絹織物をヨーロッパにもたらしたムスリム商人を何というか。カーリミー商人

カーリミー商人とはアイユーブ朝・マムルーク朝の保護の下に、東西交易をおこなったムスリム商人団。アデンやアレクサンドリアを中心に、胡椒・香料・陶磁器・砂糖などを扱って、15 世紀初めまで活躍した。

設問 11. 下線部(ウ)に関して、アッバース朝時代初期に数学者・天文学者として活躍し、インド数学を導入してアラビア数学を確立させた人物の名を記入しなさい。フワーリズミー

フワーリズミーはアッバース朝時代の数学・天文学・地理学者。知恵の館で研究し、インド数字を導入してアラビア数学を確立し、代数学を発展させた。また天文表やプトレマイオスの著作を改良した地理書も残した。ラテン語に翻訳された『アルジャブラ』は代数 (algebra) の語源となった。

演習追加問題(イスラーム世界②)

【1】 中央大学 経済

イスラーム文明についての次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

「パックス＝イスラミカ」という言葉がある。それは、イスラームによる平和、さらには①イスラーム教という信仰共同体に支えられて実現した世界秩序といった意味で用いられている。この世界秩序の核となったイスラーム教は、アラブの名門 **A クライシュ** 族出身の②ムハンマドに神から降された言葉を集成して編纂された根本聖典③『コーラン(クルアーン)』の教えを基本として成立した。イスラーム教徒の活発な商業活動や諸文明との交流を通じて地球規模で展開されたイスラーム文明は、④人類の歴史に大きな影響を与えた。しかし、ヨーロッパ中心の近代の歴史研究では、この点はあまり重視されてはこなかった。それは「近代文明」全体がヨーロッパで生まれたからであり、近代の⑤多くの学問や理論もヨーロッパから発信されたからである。

イスラーム教徒は、中央アジアから北アフリカ、そしてイベリア半島にまたがるイスラーム文明圏を形成した。イスラームの世界展開により、イスラームの中心地であるバグダードや、ウマイヤ朝の都となった

B ダマスク[カ]スには、世界中の文化、文明が集まり、融合し、イスラーム文明とよばれる高度な文明が花開いた。この文明を代表する文学作品である『アラビアン＝ナイト』には、イラン、ギリシア、アラビア、インドなど各地域の作品が融合されている。

当時のヨーロッパの文明の発達度は、イスラームのそれにはるかに及ばなかった。ヨーロッパ人にこの文明的格差に目を開かせたのが、皮肉なことに、十字軍によるイスラーム文明との接触であった。十字軍の発端は、地中海沿岸に進出してエルサレムを支配下においた **C セルジューク** 朝によるキリスト教徒の巡礼への弾圧ということになっているが、イスラーム側の見解は、全く異なっている。逆説的ではあるが、十字軍の遠征によって⑥イスラーム世界との交流が盛んになった。イスラーム文明に継承されてきた古代ギリシアやローマ文明が、主にイベリア半島や **D シチリア島** を経由して、西ヨーロッパ諸国にもたらされたのである。

しかし、このイスラーム文明の優位にも、やがてかげりが見え始め、ついにはその勢力は逆転することになる。特に、オスマン帝国による第二次ウィーン包囲の失敗は、単にオスマン帝国の国力に打撃を与えたばかりでなく、イスラーム圏に対するヨーロッパ諸国、特に近代化の最中にあった西ヨーロッパの国々のイスラーム圏への優位を確立する端緒となった。また、アラビア半島でも、オスマン帝国の国力の衰退は顕著となり、アラブ人によるオスマン帝国からの独立運動が、「預言者ムハンマドの教えに帰れ」と説く

E ワッハーブ派 [イブン＝アブドゥル＝ワッハーブ] のイスラーム教の改革運動に誘発される形で引き起こされた。19 世紀にはいるとオスマン帝国内の各地で、アラブ文化の復興運動や独立運動が引き起こされることになる。

ワッハーブ派はムハンマド・イブン・アブドゥル・ワッハーブ (1703～92) を始祖とするイスラーム復古運動。ワッハーブ派はイスラーム教の一分派で、現在のサウジアラビア王国の国教。彼は聖典『コーラン』と預言者ムハンマドの言行だけを行動の規範とする純潔主義を説き、ムハンマド時代以後の法学者のイジュマー(見解の一致)をビドア(スンナと対立する見解)として否定した。また聖人の崇拜、聖人廟への巡礼を禁じ、『コーラン』の定めた禁酒などの規定を遵守することを説いた。

〔設問Ⅰ〕 上記の文章の A から E に入るもっとも適当な語句を記入しなさい。

〔設問Ⅱ〕 上記の文章の下線部①～⑧に関する以下の問の答えを選べ。

問 1 下線部①に関して。正統カリフ時代におけるアラブ人の征服活動に関する記述として**誤っているものを1つ**選りなさい。

- (a) ニハーヴァンドの戦いでササン朝を破り、これを滅亡させた。
- (b) 征服した土地にミスルとよばれる軍営都市をもうけた。
- (c) シリアとエジプトをビザンツ帝国から奪った。
- (d) **イベリア半島に進出して、東ゴート王国→西ゴート王国を滅ぼした。**
- (e) 征服された人々は、信仰を維持したい場合、ジズヤとハラージュの支払いが義務づけられた。

問 2 下線部②に関して。ムハンマドに関する記述として**誤っているものを1つ**選りなさい。

- (a) 商業に従事する人物であった。
- (b) メッカの大商人からの迫害で、メディナに移住した。
- (c) 自らが預言者であると自覚していた。
- (d) メッカのカーバ神殿をイスラーム教の聖殿に定めた。
- (e) **アブー＝バクルを後継者に指名して亡くなった。**

カリフとは「代行者」「後継者」を意味するアラビア語のハリーファのなまったもの。預言者ムハンマドの没後、アブー＝バクルがイスラーム社会の最高指導者に選ばれたとき(632)、彼は称号として「神の使徒(ムハンマド)の後継者」を用いた。以後カリフがイスラーム社会の最高指導者の称号となった。

問 3 下線部③に関して。『コーラン』の宗教認識に関する記述として**誤っているものを1つ**選りなさい。

- (a) 『旧約聖書』と『新約聖書』を「啓示の書」と認める。
- (b) **ユダヤ教徒とキリスト教徒を「啓典の民」と呼び、特別にジズヤを免除した。**
- (c) ハディースは、ムハンマドの言行を伝えた伝承をまとめたものである。

ハディースとは「伝承」を意味するアラビア語。一般には、預言者ムハンマドの言行に関する伝承をさす。イスラーム法学の発達とともにハディース学も発達し、伝承の内容(マトン)と並んで伝承の伝達の過程および典拠(イスナード)も重視された。

- (d) 「六信」とは、神・天使・啓典・預言者・来世・天命を信じることである。
- (e) 「五行」とは、信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼を行うことである。

問 4 下線部④に関して。人類の歴史研究に大きな足跡を残した人とその作品の組み合わせとして**誤っているものを1つ**選りなさい。

- (a) **鄭玄** **『漢書』**

鄭玄は後漢の訓詁学の学者。若年で下級の官吏となったが、のち太学に進み、また馬融らに学んだ。「党錮の禁」に連座して10年間獄につながれ、その後、生涯仕えずに学問に専念した。『漢書』は前漢一代の歴史を記した書物であり、正史の一つ。班固は武帝以前の歴史を加えて前漢一代および王莽の滅亡にいたるまでの歴史を、20年余を費やして完成した。ただし、未完の部分は、妹の班昭の手になるという

- (b) イブン＝ハルドゥーン 『世界史序説』 (c) タキトゥス 『ゲルマニア』
- (d) ヘロドトス 『歴史』 (e) 司馬遷 『史記』

問 5 下線部⑤に関して。ヨーロッパの近代の学問・理論に関する記述として**誤っているものを1つ**選りなさい。

- (a) ヘーゲルは、ドイツ観念論哲学を完成した。
- (b) ベンサムは、功利主義を説き、民主主義を支える理論を提供した。
- (c) **リカードは、近代史学を基礎付けた。**

リカードはイギリス古典派経済学の最大の理論家。1799年 A. スミスの『国富論』に接し経済学に興味をもつ。価値と分配の理論においては今日にいたるまで多大の影響を与え、経済政策面でも19世紀前

半に圧倒的な影響を及ぼす。19 世紀前半のイギリスで行われた穀物法をめぐる諸論争でリカードとマルサスを中心とする 1815 年の穀物法の是非をめぐる論争を繰り広げた。リカードは穀物法の存在はイギリスの穀物価格を上昇させ、賃金騰貴、利潤率下落を通じて資本蓄積を阻害するとしてその廃止を主張し商工業者の支持を受け、マルサスは独自の有効需要理論、食料輸入の不安定性などからその擁護を主張して、地主階級に支持された。

(d) ダーウィンは、『種の起源』を著し、進化論を提唱した。

(e) マルクスは、『資本論』を著し、史的唯物論を展開した。

問 6 下線部⑥に関して。イスラームと西ヨーロッパの交流の結果に関する記述として誤っているものを 1 つ 選びなさい。

(a) 西ヨーロッパ人の視野が拡大した。

(b) ムスリム商人などの影響で、貨幣経済が息を吹き返した。

(c) 遠隔地貿易が地中海商業圏で復活した。

(d) 東方貿易で、香辛料や絹織物などの奢侈品が盛んに取引されるようになった。

(e) ヴェネツィア・ジェノヴァが金融業で栄えるようになった。

金融業で栄えたのはフィレンツェのメディチ家

【2】 中央大学 法

つぎの文章(A～C)は、ムガル帝国の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。

A ティムール帝国建国の祖ティムールから 5 代目の直系子孫にあたり、チンギス＝ハンの血もひくとされる^(a)バーブルは、ウズベク族により中央アジアの領地を追われ、カーブルを拠点に反攻の機会をうかがっていたが、ローディー朝の内紛に乗じ、北インドに進攻した。1526 年、バーブルはこの王朝軍を(1 パーニーパット)の戦いで破り、デリーを占領しムガル帝国を開いた。バーブルのあとをついだフマール＝ユーンは、1540 年スール朝のシェール＝シャーとの戦いに敗れ一時デリーを追われるが、のちにイランのサファヴィー朝の援助を受け、デリーの支配権を取り戻した。

ムガル帝国の基礎を築いたのは、第 3 代皇帝のアクバルである。首都をデリーから(2 アグラ)に移したアクバルは、地方を州・県・郡に再編し、^(b)独自の軍人官僚制度を導入し、また、徴税制度改革のために大規模な土地測量をおこない、中央集権的な統治機構をととのえた。さらにアクバルは、非イスラーム教徒に課せられていた(3 ジズヤ)を廃止し、ヒンドゥー教徒の女性をみずからの王妃とするなど、「万民との融和」をこころがけた。

B ムガル帝国は、第 4 代・第 5 代皇帝の治世である 17 世紀前半にその^(c)インド＝イスラーム文化の最盛期を迎えるが、1658 年に即位した第 6 代皇帝の(4 アウラングゼーブ)の治世にその版図は最大となった。しかし、敬虔なスンナ派ムスリムであった(4 アウラングゼーブ)は、宮廷から歌舞音曲を追放し、酒や麻薬を禁止するのみならず、ヒンドゥー教寺院の打ち壊しを命じたり、(3 ジズヤ)を復活させたりするなど、異教徒を弾圧し反発をまねいた。各地で地方勢力独立の動きが顕著となったのもこの時代であった。デカン西部では、(5 シヴァージー)のひきいるヒンドゥー教徒が、1674 年にマラータ王国を建国した。パンジャーブでは、教主(グル)が処刑されるなどのはげしい迫害を受け、しだいに軍事教団化した^(d)シク教徒が、帝国と武力衝突を繰り返した。

(4 アウラングゼーブ)の死後には、北インドや^(e)デカンに独立政権が誕生し、ムガル帝国は弱体化していった。

C 当初、^(f)イギリスとフランスは、ムガル帝国や地方政権との交渉をつうじてインドに進出していたが、ムガル帝国が内紛に陥ると、英仏両国は地方政権を巻きこみながら勢力争いを繰りひろげた。1756 年にはじまり、もとはヨーロッパでの戦争であった(6 七年)戦争もイギリスとフランスのあいだでは植民地戦争の様相

を呈した。1757 年、^(g)イギリス東インド会社軍は、フランスと(7 **ベンガル**)太守の連合軍をブラッシーの戦いで破ったが、これがイギリスのインド制覇の端緒となった。イギリスは各地の諸勢力との戦いにも次々と勝利し、インド全域をその支配下におさめた。

イギリス東インド会社は、^(h)税収確保のため新しい土地税制を導入したが、多くの農民は既得の権利を失って没落した。また、キャラコなどに代表される(8 **綿織物**)はインドのもっとも重要な輸出品であったが、イギリスの機械製の(8 **綿織物**)が流入すると、その輸出額と輸入額は逆転し、インドの手工業は壊滅的な打撃をうけた。このように植民地として収奪されるなか、ついに 1857 年、東インド会社のインド人傭兵が反乱をおこした。反乱軍はデリー城を占拠し、すでに名目だけの存在となっていたムガル皇帝を擁立したが、イギリスによって反乱は鎮圧され、ムガル皇帝バハードゥル＝シャー2 世は⁽ⁱ⁾**ビルマ**に流され、ここにムガル帝国は滅亡した。

設問 1 空欄(1～8)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(4)(5)には人名を記入すること。

設問 2 下線部(a)について。バーブルに関する記述として、正しいものを 1 つ選んでマーク解答用紙に記入しなさい。

① デリーを占領した後、郊外に「赤い砦」を建設した。

「赤い砦」とはムガル帝国第 5 代皇帝シャー＝ジャハーンが、アーグラから遷都し、自らの名を冠した新都シャージャハナーバードにおける居城として築いた。1639 年から 9 年をかけて 1648 年に完成。名称の由来ともなった城壁の赤い色は、建材として用いられた赤砂岩のものである。

② ラージプート諸王国のすべてと融和し同盟を結んだ。

③ ムムターズ＝マハルの死をいたんで白大理石の廟を建てた。**タージマハル廟**

④ **回想録『バーブルの書(バーブル＝ナーマ)』**を著した。

⑤ インド東岸に到達したヴァスコ＝ダ＝ガマと会見した。**ヴィジャヤナガル王国**

設問 3 下線部(b)について。すべての官僚を位階で序列化し、維持すべき騎兵の数とそれに応じた給与を決めた制度を何というか。その名称を答えなさい。**マンサブダール制**

設問 4 下線部(c)について。ムガル帝国の時代にはウルドゥー語が発達し、これによる文学も誕生するが、1947 年に独立し、現在ウルドゥー語を国語としている国はつぎのうちどれか。1 つ選んでマーク解答用紙に記入しなさい。

① ウズベキスタン ② スリランカ ③ バングラデシュ ④ **パキスタン** ⑤ ネパール

設問 5 下線部(d)について。シク教の開祖は誰か。その名前を答えなさい。**ナーナク**

設問 6 下線部(e)について。1724 年にデカンで独立した王国はどれか。1 つ選べ。

① ヴィジャヤナガル王国 ② カリカット王国 ③ マイソール王国 ④ シンハラ王国

⑤ **ニザーム王国**

ニザーム王国とは 18 世紀前半、デカン高原に建てられた独立政権であり、名称は建国者アーサフ＝ジャーがムガル皇帝から与えられていた称号「ニザーム＝アルムルク」（国家の統治者）に由来する。ムガル帝国の継承国家の性格を持ち、拠点をハイデラバードに置いた。

設問 7 下線部(f)について。英仏両国は、インド南部と東部にそれぞれ対抗する拠点をもっていたが、それらの組み合わせとして、正しいものはどれか。1 つ選べ。

	インド南部 英一仏	インド東部 英一仏
①	マドラスーポンディシェリ	カルカッターシャンデルナゴル
②	マドラスーシャンデルナゴル	ボンベイーポンディシェリ
③	ボンベイーポンディシェリ	カルカッターシャンデルナゴル
④	ボンベイーゴア	マドラスーシャンデルナゴル
⑤	マドラスーポンディシェリ	カルカッターゴア

設問 8 下線部(g)について。イギリス東インド会社はその性格をしだいに变化させていくが、同会社のインド貿易に関して、1813年にイギリス本国はどのような決定をおこなったか。12字以内で記述しなさい。

貿易独占権を撤廃した。

設問 9 下線部(h)について。イギリス東インド会社がおもに北インドで導入した制度であって、旧来の領主層を土地所有権者と認定して、彼らに地租納入義務を負わせた制度を何というか。その名称を答えなさい。

ザミンダーリー制

設問 10 下線部(i)について。このときビルマは何という王朝であったか。1つ選べ。

- ① トゥングー朝 ② コンバウン朝 ③ タイソン朝 ④ パガン朝 ⑤ ラタナコーシン朝

【3】中央大学 文

次の文章を読み、下線部(1)～(10)について下記の〔設問〕に答えなさい。

広大なイスラーム世界は、アッバース朝の衰退後、諸王朝が分立する時代となった。16世紀になると強大な王朝が鼎立し、前近代最後の輝きを放った。

そのうちの一つであるサファヴィー朝の歴史は、16世紀初頭、サファヴィー教団という⁽¹⁾イスラーム神秘主義教団の教主をつとめていたサファヴィー家出身の人物が、信奉者となったトルコ系遊牧民の騎兵部隊を戦力として建国したことに始まる。当初この王朝は、彼らの軍事力を背景に政権を維持していた。この王朝の君主は⁽²⁾シーア派を国教と宣言した。国教宣言をしたとはいえ、領民の多くは依然としてスンナ派に属していた。王朝が免税などのシーア派奨励策をとったので、17世紀になると、多くの人々がシーア派の信仰を受け入れるようになった。

サファヴィー朝は、建国以来、オスマン朝やシャイバーニー朝との間で領土をめぐる争いを繰り返していた。また内政上は軍事力を構成していたトルコ系遊牧部族が勢力争いに明け暮れていた。

1580年代にサファヴィー朝の実権を握った⁽³⁾第5代君主は、この難局を乗り切り、彼の統治の時代に王朝は最盛期を迎えることとなった。彼は内政安定の政策、国内の治安の回復、軍制改革や軍隊の再編、⁽⁴⁾鉄砲や火器の導入などの一連の改革を断行した。またこの君主は、⁽⁵⁾16世紀末に都をイスファハーンに遷した。彼は、経済活動を重視したため、数多くの商人や職人が新たにイスファハーンに住み着いて、経済が発展し、学術・文化も栄えた。その結果、人口が50万人に達し、「イスファハーンは世界の半分」と言われるほどに繁栄を極めた。⁽⁶⁾イスファハーンに建設された建築群は、イラン＝イスラーム建築の傑作であると言われている。彼はまた、⁽⁷⁾16世紀初めに占領されていたペルシア湾入り口付近の島を1622年ポルトガル人から奪回し、交易の拠点とした。

18世紀に入ると、サファヴィー朝は衰退し始め、1722年アフガン人の攻撃の前にイスファハーンが陥落し、事実上滅亡した。以後数十年の混乱の後、18世紀末にテヘランを都としてトルコ系のカージャール朝が成立した。19世紀になると、外国勢力の影響力がこの王朝に及んだ。カフカスの領有をめざすロシアとの間で領土をめぐる争いに敗れたこの王朝は、⁽⁸⁾1828年の条約で、アルメニアなどの領土を割譲した。19世紀半ばには、⁽⁹⁾シーア派から生まれたセイエド＝アリー＝モハンマドを教祖とする新宗教が有力となり、農民や商人の間に浸透していった。政府に不満をもった彼らは、各地で武装蜂起したが鎮圧された。

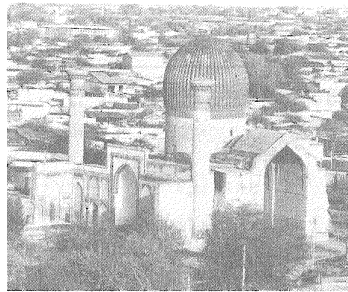
カージャール朝では、ロシアやイギリスの介入による政治的混迷が深まると、軍司令官であったレザー＝ハーンがクーデターをおこして実権を握り、⁽¹⁰⁾1925年にカージャール朝を廃して、レザー＝シャーとして王朝を

開いた。

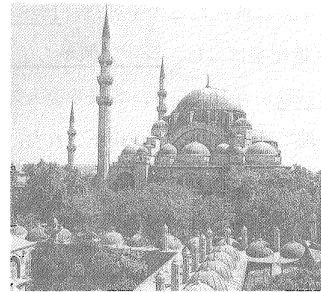
〔設 問〕

- (1) サファヴィー朝の初代君主となったこの人物は誰か。 **イスマイール**
- (2) このとき国教と宣言されたシーア派の一派は何と呼ばれるか。 **十二イマーム派**
- (3) このサファヴィー朝第5代君主は誰か。 **アッバース1世**
- (4) サファヴィー朝が歩兵鉄砲部隊を導入することになったきっかけは、1514年、サファヴィー朝とオスマン朝との間で行われた歴史的大会戦で、サファヴィー朝の主力騎馬軍団が、鉄砲を装備したオスマン朝のイエニチェリ歩兵軍団に大敗したことによる。この戦いは何と呼ばれるか。 **チャルディランの戦い**
- (5) この王朝の創建時の首都はどこか。 **タブリーズ**
- (6) 17世紀にこの地に造営されたモスクは次のうちどれか。記号で答えなさい。

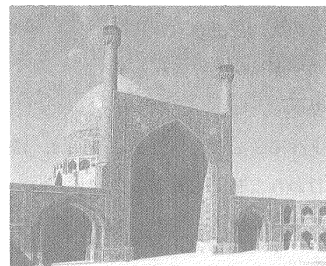
(ウ)イマームのモスクはアッバース1世によりイスファハーンのイマームの広場に面して建てられたモスクであり、イラン建築の特色である青色を中心とした壮麗なタイル装飾が施された。



(ア)



(イ)



- (7) この島は何と呼ばれるか。 **ホルムズ島**
- (8) このとき結ばれた条約は何と呼ばれるか。 **トルコマンチャーイ条約**
- (9) この新宗教は何と呼ばれるか。 **バーブ教**

バーブ教とは1840年代にイランで広まった新宗教であり、開祖サイイド＝アリー＝ムハンマドはみずからをイマームの再臨としてシャリーア（イスラーム法）の廃止を宣言、イスラーム教から分離した。社会の混乱を背景に、ロシア・イギリスの圧力とそれに対するカージャール朝の無策により多くの信者を集めたが、50年代に政府のきびしい弾圧を受けた。

- (10) この王朝は何と呼ばれるか。 **パフレヴィー朝**

【4】 首都大学東京

次の文章を読んで、以下の問い(1～4)に答えなさい。

オスマン帝国は、13世紀末、アナトリア西北部での建国後、バルカン半島に進出して勢力をたくわえた。1402年、**a アンカラ**の戦いでティムールに敗れて一時勢威は衰えるが、やがて回復して1453年にはビザンツ帝国を滅ぼした。16世紀初頭、**b セリム1世**の治世には新興のサファヴィー朝を破った後、1517年にマムルーク朝を滅亡させた。こうした大征服で活躍したのが、⁽¹⁾ **ティムール**を保持する騎士軍団であるシパーヒーとスルタン直属の常備歩兵軍団からなる **c イェニチェリ**軍団であった。

1520年に即位したスレイマン1世は、1526年に **d ハンガリー** 国王を敗死させ、その領地の大部分を併合した。さらに、1529年には神聖ローマ皇帝カール5世をいただく **e ハプスブルク** 家の支配するウィーンを包囲した。このように、オスマン帝国はヨーロッパ政治に大きな影響を与えた。スレイマンは **e ハプスブルク** 家と対立していたフランス国王 **f フランソワ1世** と結んだが、こうした協力関係が発展していき、1569年にはスレイマン期の慣習に基づき、⁽²⁾ オスマン帝国はフランス商人に特権を認めた。

スレイマンの時代、オスマン帝国は海洋にもその勢力を伸張させた。1538年、**g プレヴェザ** の海戦でスペイン・**h ヴェネツィア** の連合艦隊を破り、地中海の制海権を手中にした。1571年にはレパントの海戦でスペインなどの連合艦隊に敗れたものの、1669年に **h ヴェネツィア** からクレタ島の支配権を奪うなど、17世紀にもその勢力を維持した。

クレタ島は前67年ローマに征服され、のちビザンツ帝国に属したが、823年から961の間はイスラーム教徒の占領下にあった。13世紀初め、第4回十字軍の直後にジェノヴァ人の占領を経て、ヴェネツィア人の掌中に移り、4世紀半に及ぶ長期の支配が続いたが、17世紀なかばからオスマン帝国の侵攻が始まり、1669年首都カンディアが陥落してオスマン帝国の支配が確立した。

しかし、1683年、第二次ウィーン包囲に失敗して、⁽³⁾ 1699年にはヨーロッパ勢力と講和条約を結んだ。

問1 空欄a～hに適切な語句を入れなさい。

問2 下線部(1)について、60字以内で説明しなさい。

イクター制を継承した制度であり、シパーヒーに軍役奉仕の代償として、スルタンから与えられた土地の徴税権のこと。

問3 下線部(2)について、この特権の名称を記しなさい。また、その内容と後世に与えた影響について、80字以内で説明しなさい。

カピチュレーション

内容と影響…フランス商人に領内での居住と通商自由を認めたが、後にイギリスやオランダにも認められ、帝国の衰退期にはヨーロッパ諸国が帝国内で権益を拡大する足掛かりとなった。

問4 下線部(3)について、この条約の名称を記しなさい。また、その内容と意義について、50字以内で説明しなさい。

カルロヴィッツ条約

内容と意義…オーストリアにハンガリーやトランシルヴァニアなどを割譲し、帝国の領土が縮小に転じる契機となった。